

# 核兵器禁止条約国連で採択



## 米原市民報

日本共産党米原市議団  
清水隆徳Tel52-1969  
藤田正雄Tel55-1128  
太田幸代Tel54-2286

<http://www.jcp-maibarashigidan.com>

# 核兵器に悪の烙印を

6月16日原水爆禁止平和行進が米原市に到着しました。本年は国連で核兵器の禁止条約が締結されるといふ特別の時期の平和行進となっております。

## 7日に歴史的採択

今国連では、核兵器禁止条約締結の国連会議が開催されています。これは3月の第一期会議に引き続くもので7月7日の最終案の採択を目指しているものです。

日本共産党の志位委員長は「採択されれば、歴史上初めて核兵器が違法化され、悪の烙印（らくいん）が押される道が開かれることになる」と述べています。しかし日本政府はこの条約に反対し、会議に参加していません。

## ヒバクシャの声が国連を動かす

被爆者で日本被団協の藤森希さんは3月の国連会議に登壇し、「同じ地獄をどの国のだれにも絶対に再現してはならない」と核兵器禁止条約の成立を訴えました。

藤森さんは、広島で生後1歳4カ月の時に被爆し、目と鼻と口だけを出して包帯でぐるぐる巻きにされた」と述べ、「死を迎えるとみられていた私が奇跡的に生き延び、国連で核兵器廃絶を訴える。被爆者の使命を感じます」と語りました。

核兵器保有国と同盟国が核兵器廃絶条約をつくることに反対し、唯一の戦争被爆国の日本が核兵器禁止条約の交渉会議の招請を求め、国連総会決議に反対したことについて、「心が裂ける思いだった」と述べました。核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことをすべての国に求める「ヒバクシャ国際署名」にとりくみ、現在累計で172万余人分が

集まっていることを紹介。「決して落胆していません」とのべ、「法的拘束力のあたる条約の成立と発効に力を尽くそう」と呼びかけると、会場から拍手がわきおこりました。

## あらゆる核実験核威嚇の禁止

このような中で、今最終案では「核保有国・傘下国も参加可能」「核兵器の開発・生産・製造だけでなくあらゆる核実験（コンビュータシミュレーション等）の禁止」「核兵器使用の威嚇禁止（核抑止論の禁止）」「ヒバクシャ支援」等が議論されており、世界121カ国が参加しています

## 原水爆禁止国民平和大行進

国連での核兵器禁止条約の採択される状況の中、原水爆禁止世界大会が開催されます。国際会議（広島）8月3～5日、広島大会8月5～6日、長崎大会8月7～9日の日程です。そして被爆地・広島、長崎をめざす原水爆禁止国民平和大行進が6月6日東京―広島コースから始まりました。

米原市では6月16日関ヶ原町でタスキを受け、山東庁舎前で集会を開催し、その後近江長岡駅までパレードを行い、長浜に引き継ぎました。以下はその集会での平尾市長の挨拶（代読）です。



爆禁止国民平和大行進、大変ご苦労様です。

昨年末、核兵器を禁止しその全面廃絶に至る法的拘束力を持つ条約を交渉する国連会議の招請決議が国連総会で採択され、化学兵器や生物兵器といった大量殺戮兵器と同様に、核兵器を国際的な法の力によって禁止し廃絶する道が開かれました。

しかしながら、「核の抑止力」への依存により今なお多くの国で核兵器が保有されており、さらに東アジアでは、核開発を進める国によって緊張が高まっており、平和を脅かす要因は後を絶ちません。

「非核・平和都市」を宣言した米原市では、市民の皆様とともに、戦争のない平和な社会、核兵器のない世界を求める訴えを今後も引き続き行おうとともに、平和首長会議を通じて、世界の都市が国境を越えて連帯し、世界に核兵器の非人道性を訴え、核兵器の廃絶を求め続けてまいりたいと思っております。

2017年6月16日

米原市長 平尾道雄

## 市長アピール

本日は、2017年原水

